

## 背中に学ぶ

コロナ禍の中の夏期参詣は、三密の対策やご供養のいただき方の工夫をしつつ、8月13日までの20日間、例年通り開催しました。ただ、やはりコロナの影響でしょうか。一日平均の参詣者数は昨年の23パーセント減、皆参者は4割減の実績です。首都圏の感染者が多い地域では、ご供養はおろか、お寺参詣自体も長期間控えるところがありますから、通常のご奉公や生活を、ウィズコロナで工夫しながら継続できる私たちは、実に有難い環境にいると痛感します。たいへんな時ほど、強い支えとなるご信心です。組内や家族が励まし合って信行の功德を積み、コロナ危機を乗り越えていきましょう。

ところで、今年の夏期参詣は人数もさることながら、朝参詣をする子どもたちをほぼ見なかったことが気になりました。お寺参詣、特に朝参詣は功德を授かる基本で、ご信心を育む大事なご奉公です。ただ、日頃は生活に追われて参れない人も多いため、寒修行と夏期参詣は宗門全体で集中参詣の期間とし、参りやすいよう朝食のご供養も準備して促進します。故に普段は見ない顔ぶれが朝参りに揃い、夕方や晩も学校帰り、勤め帰りの参詣者があるのが佛立寺院の風景で、「修行のしどころ」と自身を励まし皆参を目指す人や、「家族の年中行事」と楽しむご信者を、私もいろんなお寺で見してきました。

もちろん松風寺にもそんなご信者はありますが、他寺院に比べると少なめで、特にここ数年は普段の朝参詣者が連日休まず頑張るものの、家族や組内に拡がらない印象でした。子どもたちは親が連れてこないと参れませんが、親世代は忙しく、役中さんや教化親さんの励ましの声が大事です。第一線でご奉公されるご信者の多くは子どもの頃や若い頃、そうして励まされてお寺参詣した思い出をお持ちですから、寒夏の集中参詣に家族で参る大事はお分かりでしょう。

若い頃から家族で参る良さは多々ありますが、最も素晴らしいのはたくさんの方の先輩から、「生きたご信心」を学べる点です。ご信心は理屈より生きたお手本が重要で、「お寺が大事」「ご奉公が有難い」「夏期参詣だけは万難を排して参らねばならぬ」等と真剣に喜んで励む姿から御法への敬いや畏れ、ご奉公への真摯な姿勢や謙虚さを、体が感覚的に学びます。もちろん家庭内も然り。親や祖父母がお看経に励む姿を見て育ち、あるいは一緒に口唱に汗した体験を持つ子どもは比較的役中としてご信心を相続し、お寺やご信者を小馬鹿にする親を見て育つと周りがサポートしても良いご信心が身に付かず、時に法灯相続も危うくなりがちなのも、手本の大事を教えています。「御題目は有難い」という同じ言葉も、どんな表情やご奉公ぶりから聞くかで意味はまったく変わりますから、皆が頑張ってお奉公される場に家族で参り、子たちには感受性豊かな間にご信心を育てて欲しいし、年配者もそのつもりで良いお手本となって欲しいのです。

ご信心の微妙な感覚は、先輩方の背中を見ながら学ぶものです。目標になる人が多いほど、良いご信心のお寺や組が育ちます。そんな、肌感覚でご信心を学ぶ場に、寒夏の参詣も育てねばなりません。

(松風寺月報 令和2年9月号)